

			追加・変更意見	追加○/削除×	内容の確認で十分	医師以外で十分
314			くすりとの区分(食薬区分)	○		
315	農業、香粧品としての利用	天然物質の農業、香粧品などの原料としての有用性(具体例)		×		○
315	健康食品・サプリメントとしての利用		医薬品と健康食品の違い	○		
315			特定機能食品(トクホ)の特徴	○		
315			健康食品・サプリメントと医薬品の相互作用	○		
316	生薬の同定と品質評価	日本薬局方の生薬総則および生薬試験法		×		○
317		代表的な生薬を鑑別できる		×		○
317			代表的な生薬の確認試験について説明できる	○		
317			代表的な生薬の純度試験について説明できる	○		
317			代表的な生薬の定量法について説明できる	○		
318		代表的な生薬の確認試験を実施できる		×		○
318			基本的な確認試験(成分名、確認方法)	○		
319		代表的な生薬の純度試験を実施できる		×		○
319			代表的な生薬成分の定量法を実施できる	○		
320		生薬の同定と品質評価法		×		○
321	(2)薬の宝庫としての天然物	シーズの探索	医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体(具体例)	×		○
322			シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学(例示)	×		○
323			医薬原料としての天然物質の資源確保に関する問題点(列挙)	×		○
324	天然物質の取扱い	天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる		×		○
325			代表的な天然有機化合物の構造決定法(具体例)	×		○
326	微生物が生み出す医薬品	抗生物質、化学構造に基づく分類	抗生物質、免疫抑制剤など、化学構造に基づく分類および作用機序	×		
326			代表的なポリケチドの構造と生合成	○		
327	発酵による医薬品の生産	微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程	微生物が生産する抗生物質の種類 代表的な抗生物質の生合成経路、基原、薬効について説明できる	×		
328	発酵による有用物質の生産	微生物の生産する代表的な糖質、酵素(列挙)、利用法	微生物の生産する代表的な糖質、酵素、利用法 微生物変換による物質生産の例を挙げる	×		
328			微生物の生産する代表的な糖質、酵素(列挙)、生理活性物質、利用法	○		
329	(3)現代医療の中の生薬・漢方薬	漢方医学の基礎	漢方医学の特徴	×		
330			漢方薬と民間薬、代替医療との相違	×		○
330			漢方薬、民間薬、伝統医学由来の生薬の特徴	○		
330			補完代替医療の中での生薬・薬用植物利用	○		

			追加・変更意見	追加○/削除×	内容の確認で十分	医師以外で十分
331		漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違い		×		
332		漢方処方ど「証」との関係		×		○
333		代表的な漢方処方の適応症と配合生薬	代表的な漢方処方(柴胡剤、人參剤、麻黄剤、瀉心湯類、駆水剤等)の適応症と配合生薬	×		
334		漢方処方に配合されている代表的な生薬(例示)、その有効成分	漢方処方に配合されている代表的な生薬、その有効成分	×		
335		漢方エキス製剤の特徴、煎液との比較(列挙)	漢方エキス製剤の特徴を、煎剤、丸剤、散剤と比較できる 漢方エキス製剤の特徴、煎液との比較	×		
335			一般用医薬品としての漢方製剤のリスク説明	○		
336	漢方処方の応用	代表的な疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	消化器、循環器、呼吸器、代謝・内分泌、血液、産婦人科、外科、皮膚科、精神科等の疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	×		
336			代表的な消化器系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な循環器系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な呼吸器系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な代謝・内分泌系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な腎・泌尿器系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な神経・筋疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な自己免疫疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な血液系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な産婦人科系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な運動器系疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な皮膚科疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な耳鼻咽喉科疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な眼科疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な小児科疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			代表的な高齢者疾患に用いられる生薬および漢方処方の応用、使用上の注意	○		
336			組み合わせによる薬効の変化	○		
337		漢方薬の代表的な副作用や注意事項		○		

C8 生命体の成り立ち

338	(1)ヒトの成り立ち	概論	ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置			
-----	------------	----	-----------------------------	--	--	--

			追加・変更意見	追加○/削除×	内容の補正で十分	図表を添付して不十分
338			体のでき方(発生学的観点)	○		
339		ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担				
340	神経系	中枢神経系の構成と機能の概要				
341		体性神経系の構成と機能の概要				
342		自律神経系の構成と機能の概要				
343	骨格系・筋肉系	主な骨と関節の名称、位置		×		○
343			関節の構造と機能	○		
344		主な骨格筋の名称、位置		×		○
344			骨格系・筋肉系の構造と機能	○		
345	皮膚	皮膚の機能と構造				
346	循環器系	心臓の機能と構造				
347		血管系の機能と構造				
348		リンパ系の機能と構造				
349	呼吸器系	肺、気管支の機能と構造				
350	消化器系	胃、小腸、大腸などの消化管の機能と構造				
350			食道・十二指腸について機能と構造を関連づけて説明できる。	○		
351		肝臓、膵臓、胆嚢の機能と構造				
352	泌尿器系	腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器の機能と構造				
353	生殖器系	精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器の機能と構造				
353			前立腺について機能と構造を関連づけて説明できる。	○		
354	内分泌系	脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器の機能と構造				
354			視床下部・副甲状腺についての機能と構造を関連づけて説明できる。	○		
355	感覚器系	眼、耳、鼻などの感覚器の機能と構造				
356	血液・造血器系	骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器の機能と構造				
348			リンパ系の機能と構造	○		
357	(2)生命体の基本単位としての細胞	細胞集合による組織構築	受精卵の発生と組織の構築			
358		臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類(列挙)、形態的および機能的特徴	臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類、形態的および機能的特徴 ・組織の種類とその構成細胞、器官の組織構成			
359		代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	代表的な細胞および組織の顕微鏡像 ・代表的な細胞および組織標本を顕微鏡を用いて観察できる。(技能) ・代表的な細胞と組織の顕微鏡像を説明できる	×		
360	細胞膜	細胞膜の構造と性質				
361		細胞膜を構成する代表的な生体分子(列挙)、その機能	細胞膜を構成する代表的な生体分子、その機能			
362		細胞膜を介した物質移動	細胞膜を介した物質やイオンの輸送			

			追加・変更意見	追加○/削除×	内容の補正で十分	図表を添付して不十分
363	細胞内小器官	細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能		×	○	
363			細胞内におけるタンパク質の選別と小胞輸送	○		
364	細胞の分裂と死	体細胞分裂の機構	体細胞、生殖細胞の分裂機構の違い			
364			細胞周期			
365		生殖細胞の分裂機構		×	○	
365			細胞周期の制御と監視に関わるタンパク質の種類と機能	○		
366		アポトーシスとネクローシス	ネクローシスとアポトーシスの違い、アポトーシスのシグナル伝達			
367		正常細胞とがん細胞の違い(対比)				
368	細胞間コミュニケーション	細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴	細胞間の接着構造(コラーゲン、プロテオグリカン)、主な細胞接着分子の種類と特徴			
369		主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質		×	○	
370	(3)生体の機能調節	神経・筋の調節機構	神経系の興奮と伝導の調節機構			
370			記憶のメカニズム	○		
370			体性感覚と内臓感覚を説明できる	○		
371		シナプス伝達の調節機構	シナプス伝達の機構とその調節			
372		神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構(代表例の列挙)	神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構(代表例)			
373		筋収縮の調節機構	筋収縮の機構			
374	ホルモンによる調節機構	主要なホルモンの分泌機構および作用機構	主要なホルモンの分泌調節機構および作用機構			
374			ホルモンによるホメオスタシスの調節機構(代表例の列挙)	○		
375		血糖の調節機構				
376	循環・呼吸系の調節機構	血圧の調節機構				
376			刺激発生と伝導系の調節機構を説明できる。	○		
377		肺および組織におけるガス交換				
377			刺激発生と伝導系の調節機構を説明できる。	○		
378		血液凝固・線溶系の機構				
378			刺激発生と伝導系の調節機構を説明できる。	○		
379	体液の調節機構	体液の調節機構				
380		尿の生成機構、尿量の調節機構				
381	消化・吸収の調節機構	消化、吸収における神経の役割				
382		消化、吸収におけるホルモンの役割				
383	体温の調節機構	体温の調節機構				
383	生命体の誕生	個体発生と器官形成	配偶子の形成から出生に至る一連の過程と器官形成の全体像を説明できる。	○		
383	遺伝と疾患		単一遺伝子(メンデル)遺伝、多因子遺伝、ミトコンドリア遺伝の様式を説明し、代表的な疾患を列挙できると共に、染色体異常による疾患の主なものを概説できる	○		

			追加・変更意見	追加○/削除×	教科書の規定で十分	図表が豊富で分かりやすい
384	(4)小さな生き物たち → 微生物	総論	生態系の中での微生物の役割	生態系の中での代表的な微生物の役割		
385			原核生物と真核生物の違い			
386		細菌	細菌の構造と増殖機構			
387			細菌の系統的分類、主な細菌(列挙)	細菌の系統的分類、主な細菌		
388			グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違い			
389			マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌の特性			
390			腸内細菌の役割		×	
390				常在細菌の役割	○	
391			細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)	細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換、トランスポゾンやインテグロンなど)	×	○
392		細菌毒素	代表的な細菌毒素の作用			
393		ウイルス	代表的なウイルスの構造と増殖過程			
394			ウイルスの分類法	ウイルスの分類	×	○
395			代表的な動物ウイルスの培養法、定量法	代表的な動物ウイルスの検出方法	×	○
396		真菌・原虫・その他の微生物	主な真菌の性状			
397			主な原虫、寄生虫の生活史			
398		消毒と滅菌	滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念			
399			主な消毒薬を適切に使用する	主な消毒薬の適切な使用方法	×	
400			主な滅菌法を実施できる	主な滅菌法	×	
401		検出方法	グラム染色を実施できる	グラム染色	×	○
402			無菌操作を実施できる		×	
402				抗酸染色	○	
403			代表的な細菌または真菌の分離培養・純培養を実施できる	代表的な細菌または真菌の分離培養・純培養	×	○
404			細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)	細菌の同定、計数等に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)	×	○
405			代表的な細菌を同定できる	代表的な細菌を同定	×	○

C9 生命をミクロに理解する

406	(1)細胞を構成する分子	脂質	脂質の種類、構造の特徴と役割	脂質の種類、構造の特徴と役割、慣用名	×	○
407			脂肪酸の種類と役割		×	○
408			脂肪酸の生合成経路	脂肪酸生合成経路の概略		
408				脂肪酸とリン脂質の生合成経路	○	
409			コレステロールの生合成経路と代謝	コレステロール生合成経路と代謝の概略		
410		糖質	グルコースの構造、性質、役割		×	○
411			グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割		×	○
412			代表的な多糖の構造と役割			
413			糖質の定性および定量試験法を実施できる	糖質の定性および定量試験法	×	○
414		アミノ酸	アミノ酸(列挙)、構造に基づく性質	アミノ酸(列挙)、構造に基づく性質、慣用名	×	○

			追加・変更意見	追加○/削除×	教科書の規定で十分	図表が豊富で分かりやすい
415			アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝		×	○
416			アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる	代表的なアミノ酸の定性および定量試験法	×	○
416				アミノ酸を材料とする生合成について説明できる	○	
416				ヘムの生合成と分解を説明できる	○	
416				ペプチドの化学構造と性質	○	
417		ビタミン	水溶性ビタミン(列挙)、構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応	水溶性ビタミン、構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応		
417				水溶性ビタミンおよびミネラル、構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応	○	
418			脂溶性ビタミン(列挙)、構造、基本的性質と生理機能	脂溶性ビタミン、構造、基本的性質と生理機能		
418				脂溶性ビタミン、ミネラル、構造、基本的性質と生理機能	○	
419			ビタミンの欠乏と過剰による症状			
419				ミネラルの欠乏と過剰による症状	○	
420	(2)生命情報を担う遺伝子	ヌクレオチドと核酸	核酸塩基の代謝(生合成と分解)	ヌクレオチドの代謝(生合成と分解)	×	○
420				「ヌクレオチド、ヌクレオチドの化学構造」	○	
420			DNAの構造			
422			RNAの構造			
423		遺伝情報を担う分子	遺伝子発現に関するセントラルドグマ			
424			DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点			
425			ゲノムと遺伝子の関係			
426			染色体の構造		×	○
427			遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)			
428			RNAの種類と働き			
429		転写と翻訳のメカニズム	DNAからRNAへの転写			
430			転写の調節(例示)			
431			RNAのプロセッシング			
432			RNAからタンパク質への翻訳の過程			
433			リボソームの構造と機能		×	○
434		遺伝子の複製・変異・修復	DNAの複製の過程			
435			遺伝子の変異(突然変異)		×	○
436			DNAの修復の過程			

		追加・変更意見		追加○/削除×	○印の欄で×が	×印の欄で×が
437	遺伝子多型	一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響	遺伝子の多様性と生体機能におよぼす影響	×		
438	(3)生命活動を担うタンパク質	タンパク質の構造と機能	タンパク質の主要な機能(列挙)			
439		タンパク質の一次、二次、三次、四次構造	タンパク質の主要な機能			
440		タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾				
441	酵素	酵素反応の特性(一般的な化学反応との対比)		×	○	
442		酵素の反応様式に基づく分類、代表的なものの性質と役割				
443		酵素反応における補酵素、微量金属の役割				
444		酵素反応速度論		×	○	
445		代表的な酵素活性調節機構				
446		代表的な酵素の活性を測定できる	・代表的な酵素の活性測定 ・酵素を適切に取扱い、代表的な酵素の活性測定を実施できる。	×	○	
447	酵素以外の機能タンパク質	細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能	細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質、その機能			
448		物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能				
449		血漿リポタンパク質の種類と機能				
450		細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質(列挙)、その機能				
451		細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割				
452	タンパク質の取扱い	タンパク質の定性・定量試験法を実施できる	タンパク質の定性・定量試験法			
453		タンパク質の分離・精製と分子量の測定法を説明し、実施できる		×		○
454		タンパク質のアミノ酸配列決定法		×	○	○
455	(4)生体エネルギー	栄養素の利用	食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬			
456		ATPの産生	ATP、高エネルギー化合物、化学構造			
457		解糖系	解糖系(細胞内局在を含む)			
458		クエン酸回路	クエン酸回路(細胞内局在を含む)			
459		電子伝達系(酸化的リン酸化)	電子伝達系(酸化的リン酸化)(細胞内局在を含む)			
460		脂肪酸のβ酸化反応	脂肪酸のβ酸化反応(細胞内局在を含む)			
461		アセチルCoAのエネルギー代謝における役割				
462		エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割				
463		ATP産生阻害物質(列挙)、その阻害機構	ATP産生阻害物質(列挙)			
464		ペントースリン酸回路の生理的役割		×	○	
465		アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割	嫌氣的解糖の種類と役割	×	○	
466	飢餓状態と飽食状態	グリコーゲンの役割				
467		糖新生	糖新生(細胞内局在を含む)			
468		飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)				
469		余剰のエネルギーを蓄えるしくみ				
470		食餌性の血糖変動				
471		インスリンとグルカゴンの役割				
472		糖から脂肪酸への合成経路				

		追加・変更意見		追加○/削除×	○印の欄で×が	×印の欄で×が
473		ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸	ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸(細胞内局在を含む)			
474	(5)生理活性分子とシグナル分子	ホルモン	代表的なペプチド性ホルモン(列挙)、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構			
474			ホルモンのフィードバック機構	○		
475			代表的なアミノ酸誘導体ホルモン(列挙)、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構			
476			代表的なステロイドホルモン(列挙)、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構			
477			代表的なホルモン異常による疾患(列挙)、その病態			
478	オータコイドなど	エイコサノイド				
479		代表的なエイコサノイド(列挙)、その生合成経路		×	○	
480		代表的なエイコサノイド(列挙)、その生理的意義(生理活性)				
481		主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割				
482		主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割				
483		一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割	一酸化窒素等のガス状メディエーターの生合成経路と生体内での役割			
484	神経伝達物質	モノアミン系神経伝達物質(列挙)、その生合成経路、分解経路、生理活性				
485		アミノ酸系神経伝達物質(列挙)、その生合成経路、分解経路、生理活性				
486		ペプチド系神経伝達物質(列挙)、その生合成経路、分解経路、生理活性				
487		アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性				
488	サイトカイン・増殖因子・ケモカイン	代表的なサイトカイン(列挙)、それらの役割				
489		代表的な増殖因子(列挙)、それらの役割				